

日本デジタル配信

ケーブルテレビ業界のプラットフォームとして

業界を挙げて取り組んでいるケーブルプラットフォーム、その機能を担っているのが日本デジタル配信(JDS)である。映像配信プラットフォームとしてACAS/4K自主放送、MPEG2高圧縮、みるプラスTV、コンテンツ流通プラットフォームとして「ケーブル4K」(業界共通4Kチャンネル)、そしてIDプラットフォームとしてケーブルID、クラウドサービス等について、同社の取り組みを、パネルや機器展示でわかりやすく紹介した。また、今後のサービス基盤と目される放送のIP配信、また今年12月に放送開始の新4K8K衛星放送についても展示、ケーブルテレビの次世代を拓くソリューションを示した。

JDSは本展示会で最大規模のブースを設けたが、その中にステージを用意し、さまざまなプレゼンやゲストを招いてのトークショーを行なった。初日には、昨年「ケーブル4K」で15時間生中継された「スラックラインW杯」の実行委員長で浄光寺副住職の林映寿さん、2日目には「プロレスフェス2018」の信州プロレス代表グレート無茶さんが登場し、大いに盛り上げた。



JDSブース内のステージでは終日楽しいトークイベントが行われた

ニューメディア

ハイブリッドキャストを活用した次世代ソリューション

放送の高度化と共に、ハイブリッドキャスト対応端末は一層普及が進むと考えられている。ニューメディアは、現在のデータ放送に簡単にハイブリッドキャスト機能を追加するオールインパッケージを開発。コミチャン番組のアーカイブ配信や地域特産品の情報発信など、ケーブルテレビの強みを活かしてサービスを多様化し、新たな価値を創造する仕組み各種を紹介した。

「ハイブリッドキャスト版ご案内チャンネル」は、マルチ画面を分割表示して、カーソルで選択したチャンネルが簡単に選択可能。双方向性を活かし、顧客とのコミュニケーションツールとしても活用できる。視聴者ニーズに応じたおすすめ情報の提供やサービス申込み受付、制御を可能にする。

また、コミチャンからワンタッチ起動で利用できる動画配信サービスを紹介。端末にVODアプリケーションをインストールすることなく、サービスを実現する。この仕組みは、インターネットによる配信番組の「寄席チャンネル」「ユナTV(福島ユナイテッドTV)」などで採用されている。



ハイブリッドキャストを活用した地域情報の発信

ネットセーブ

「無線」をキーワードに各種機器・サービスを展示

関電工の100%子会社であるネットセーブは、新発売のWi-Fi測定器「WX150」を出展。スペクトラムアナライザ機能を搭載し、従来製品より小型化・低価格化を実現した。Wi-Fiアクセスポイント(AP)の検出により、SSID、BSSID、チャネル、セキュリティ、サポートするデータレート、信号およびノイズレベル、同一チャネル、隣接AP、クライアントを含むAPの詳細情報を表示する。トップメニューはホームボタンを押せば直ちに開き、感覚的に操作が可能。本製品を持って加入者宅を訪問すれば、現場の電波状況が判明するため、顧客に明確な説明ができ、サポート向上につながるという。



新発売のWi-Fi測定器「WX150」

国内トップシェアを誇るWi-Fi認証サーバ「POPCHAT」は、ケーブルテレビの既存ネットワークを利用して、サーバから端末間をL2ネットワークで接続する。認証画面は最大12言語に対応しているため、Wi-Fi利用者の間口を柔軟に広げ、地域の付加価値向上や活性化に貢献する。

このほか、災害時に有効なWi-Fiネットワーク構築パッケージ「Movable-ONE」や地域BWAの施工事例を紹介した。

パナソニック システムソリューションズ ジャパン

“顧客との共創”により 次世代放送・サービスの課題を解決

①4K、②IP、③運用、と大きく3つに分けたブース展開で各種ソリューションを提案した。4K関連では、ヘッドエンドから受信端末までEnd to Endの製品・ソリューションを出展。今年11月にBasicモデルを発売予定の高度BS対応 4K-STBは、BSパススルー/トランスモジュレーションの方式に対応。高度BS放送の開始に伴い、ケーブルテレビ局では再送信対応による帯域不足が課題となるが、本製品の導入でBS 4KとBS 2Kのパススルー信号をBS-IF帯域に割り当ててケーブルテレビ帯域を空け、4K専門チャンネル等に当て、帯域の有効活用ができる。ケーブルテレビ/BS右旋・左旋など、ネットワーク毎に受信を設定しているため、事業者の送信環境に応じて幅広く対応が可能だ。

IPソリューションでは、過去に放送したコミチャン番組を自動で蓄積し、IP配信するシステムを近日発売予定。人手をかけずにIP配信が導入できる。4K番組にも対応し、視聴デバイスのアプリと配信プラットフォームを連携させることで、多様なデバイスにも対応可能。



高度BS対応4K-STB